



令和2年6月30日

No.19号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸哉

<児童数 204名>

TEL 623-6019

「玄関は“学校の顔”！」⑤

感性を研ぎ澄ましてみる・見る・観る

～素敵な絵画や大型地球儀、いのちを守る AED 等々～

毎朝、語りかけてくれるホワイトボードのことを、No.17～18において連続話題にしました。皆さん、昨日のホワイトボードは見れましたか。心に留まりましたか。琴線に触れましたか。「分かれ道②」でしたね。日常で、どんな道を選ぶのか……。迷うことや悩むことも学びの大切な一過程です。判断力は、判断してこそ磨かれます。適度な失敗は、人生の肥やし。さあ、踏みだそう！最初の一步。



さて、このホワイトボードの左隣には、大きな絵画作品が展示されております。本校第8回卒の日本芸術院会員・菅野矢一氏の絵画『蒼（あお）い岬（みさき）』という作品です。春から初夏にかけての岬でしょうか。清々しい色彩で、さわやかな朝にぴったりの絵画です。気持ちよく、一日のスタートを切ることができます。本校には、たくさんの絵画や写真等が掲示されています。このことについては、今後、随時触れてゆきます。

この素敵な絵画から視線を下に移すと、いのちを守る「AED(自動体外式除細動器)」、世界を俯瞰できる「大型地球儀」、自己の身なりを振り返る「姿見」が置かれてあるのに気づきます。「AED」は2台配備しています。体育館と玄関です。「大型地球儀」は巨視的に見てほしいという願い、「姿見」は近視眼的に見てほしいという思いが……。どちらも、各々大切な見方です。花に例えると、ひまわりは太陽に向かって顔をあげ視野を広く、ひめさゆりは足下や根っ子をしっかりと見つめます。どちらも素敵で大切な花々です。

今度は、振り返って外玄関側を向くと、スタンドグラスが目に飛び込んできます。実際にはスタンドグラスではありませんが、スタンドグラスのように明るい朝の日差しを受けて、思い出のシーンが浮かび上がってくるのです。平成20年度卒業生の卒業記念制作です。1年間の歩み、もっと言えば6年間の、いや109年間の歩みが



凝縮されています。わくわくするような活動が盛りだくさんです。伝統を大切にしながら、新しいことに挑戦し続けてきた第四小の真髓が表現されています。